

第2学年 音楽科学習指導案

授業者 新潟県長岡市立大河津小学校

平出 久美子

1 題材名

「ようすを そうぞうして うたおう ーみんなにとどけ！わたしたちのゆめはなびー」

(教材曲：「ゆめはなび」弓削田健介作詞・作曲、協力 能登と長岡の児童生徒)

2 題材の目標

- (1) 「ゆめはなび」の曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりなどについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な技能を身に付ける。

【知識及び技能】

- (2) 「ゆめはなび」の旋律、声の音色などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつ。

【思考力、判断力、表現力等】

- (3) 曲の特徴を捉え、声の音色を工夫して表現する活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組み、花火の歌に親しむ。

【学びに向かう力、人間性等】

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

第2学年 A表現(1)歌唱

ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。

イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。

ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア)範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能

(イ)自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能

(ウ)互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

(本題材の学習において、生徒(児童)の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」「音色」)

4 題材観

音楽を全身で楽しんだり、想像力豊かに表現したりする子どもたちにとって、「ゆめはなび」の弾んだりリズムは、花火が打ち上がるわくわく感や、気持ちの高まりを表現しやすい。13小節目から順次進行で旋律が上昇していくことにより、花火が上がる様子が表現されている。「ヒューン」「キラキラ」などの擬音語や擬態語は、子どもたちが様子を想像しながら「このように歌いたい」という思いをもちやすく、歌詞

に合わせて声の音色や歌い方を変えて表現していく姿が期待できる。自分の思いをどのように表現するか、思考力・判断力・表現力を高めながら表現する楽しさを味わうことができる。

<教科等横断的な学習>

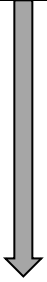
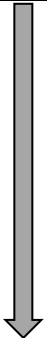
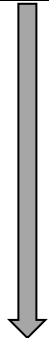
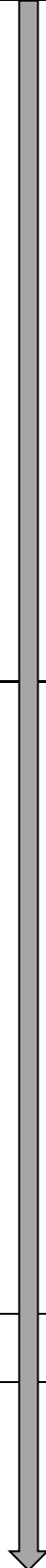
- ・体育科…表現リズム遊びの学習で、「ゆめはなび」の軽快なリズムの音楽に乗って踊る楽しさに触れ、友達と様々な動きを見付けて踊ったり、みんなで調子を合わせて踊ったりする楽しさを味わう。花火が「ヒューン」と打ち上がる様子や、大空いっぱい「ドーン」と花開く様子などを想像し表現を工夫する。さらに、ダンスで表現する中で旋律の動きに着目したり、体の動きから声の音色を引き出したりしていく。即興的な身体表現能力やリズムに乗って踊る能力、コミュニケーション能力などを培うことが期待できる。
- ・児童会活動…主として第5学年が計画や運営に当たる児童会活動「6年生を送る会」の中で、1年生からのプレゼントとして、6年生の卒業を祝うダンスを自分たちで考える。6年生をはじめ全校児童や保護者、地域の方に向けて、歌とダンスを発表することで、主体的に児童会活動に参加し、音楽で人を感動させる喜びを味わうと共に、学級・学校への所属感の高まりが期待できる。

5 児童の実態

(各校の実態)

6 題材の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。 技① 思いに合った表現をするために必要な、範唱を聴いて歌う技能を身に付けて歌っている。 技② 思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。	思 旋律、音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。	態 曲の特徴を捉え、声の音色を工夫して歌う活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

次	時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
第1次	◎「ゆめはなび」の曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う。				
	第1時	○「ゆめはなび」の歌詞の表す様子や旋律の動きや声の音色などの曲の特徴を捉える。 ・ 範唱を聴いて感じたことを伝え合う。 ・ 歌詞を読んだり、花火が打ち上がる写真を見たりしながら、歌詞の表す様子や雰囲気を感じ取る。 ・ リズムや音程に気を付けて、楽譜を見ながら歌詞唱する。 ・ 曲の特徴的なところをワークシートに書いて伝え合う。 ・ 歌詞の様子を思い浮かべながら歌う。 ○「ゆめはなび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。 ・ 擬音語「ヒューン」「ドーン」などの部分について、花火が打ち上がる様子や花開く様子を、旋律の上昇などの特徴を捉えて表現を工夫する。 ・ 第1時で学習した表現を生かし全員で「ゆめはなび」を歌う。	 知① 観察 記述 技① 観察 表現		
第2次	第2時	○旋律、音色などをよりどころにして、「ゆめはなび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 ・ 前時を振り返り、第3フレーズの「小さなたねが ヒューン」「大きなゆめが ドーン」の部分について表現を工夫して歌う。 ・ 歌いながら、旋律の動きに合わせて手を動かす。 ○「ゆめはなび」の旋律の上昇、音色、歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 ・ 「小さなたねがヒューン」「大きなゆめがドーン」などの歌詞に着目して声の音色をどのように工夫するか考えたり歌ったりする。 ○第1～2時で学習したことを生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。	 技② 観察 表現	 思① 記述 発言 表現	
	第3時	◎自分たちの思いを歌とダンスで表現する。			
第2次	第3時	○表現を工夫した「ゆめはなび」の歌を「6年生を送る会」で発表する。（体育科・児童会活動との関連した表現リズム遊び） ・ 工夫した点を紹介してから発表する。 ・ 発表を鑑賞し、その工夫を取り入れて全校で表現する。			

8 本時の学習

(1) 本時のねらい

「ゆめはなび」の歌い方を工夫する中で、旋律、音色、歌詞の内容に合うように声の音色を変え、とよいことに気づき、思いをもって歌うことができる。

(2) 本時の展開

段階	○学習内容 ・学習活動	発問・指示「 」 ◇児童の反応	※指導上の留意事項 ★評価
導入 【15分】	○「ゆめはなび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 ・「小さなたねがヒューン」の部分について表現を工夫して歌う	『『小さなたねがヒューン』の部分はどのように歌いたいですか。』 ◇花火が上がる前の「たね」だから、弱い声で弾んだリズムに合わせて歌いたい。 ◇音符がだんだん上がっているから、始めは弱く歌って、だんだん強く歌いたい。 ◇「ヒューン」の所は、空に上がっていく感じで、明るい声で歌いたい。	※歌いながら、旋律の動きに合わせて手を動かす。 ※旋律、リズム、歌詞などをよりどころにして、「小さなたねがヒューン」の歌い方の工夫の視点をもたせる。
展開 【35分】	◎「ゆめはなび」の歌に合うように、声の出し方を工夫して歌おう。		
	○「ゆめはなび」の旋律、音色、歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 ・声の音色をどのように工夫して歌うか考えたり歌ったりする。	「音符やリズム、歌詞に合うように、歌って試してみましょう。」 ◇「大きなゆめがドーン」は声を強くして、響かせて花火が大きく開く感じにしたい。 ◇「ゆめはなびをうちあげよう」の所は、スキップのリズムだから、明るい声で歌いたい。 ◇最後の「ゆめは・な・び」は、声を弾ませてはっきりと歌いたい。 「工夫した表現を友達と聴き合ひましょう。」 ◇「ドーン」の声がとても大きくて響いていて花火の感じが伝わってきた。 ◇スキップのリズムを明るくて楽しそうに歌っていた。自分たちも歌ってみたい。	※「小さなたねがヒューン」「大きなゆめがドーン」などの歌詞に着目して声の音色をどのように工夫するか考える視点をもたせる。 ★ 思 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。(記述・発言・聴取)
まとめ 【10分】	○思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。	「声の出し方を工夫して歌ってみよう。」 ◇花火が打ち上がる様子を表現できた。花火の感じがもっと出るように、振り付けを考えて歌いたい。(「体育科」表現リズム遊びの学習振り付けを考える) ◇自分たちの歌を6年生や全校のみんなに聴いてほしい。(「児童会活動」6年生を送る会で全校児童や保護者に発表する)	★ 技② 思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。(聴取)

9 本時の評価

旋律、音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつことができる。

	A 十分満足できる	C 努力を要する
児童の様子	意図して声の音色を工夫したりそのよさを言語化したりしている。	声の音色を工夫する視点をもつことができない子には、様々な声で試し歌いをしたり、教師が声の音色を変えて歌い、どの音色で歌いたいかわ問うたりして、思いをもつことができるようにする。

10 参考資料・文献

- ・ 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 音楽』東洋館出版社
- ・ 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説 音楽編』東洋館出版社
- ・ 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋館出版社
- ・ 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版社
- ・ 関東甲信越音楽教育研究会（2024）「関東甲信越音楽教育研究会新潟大会（長岡大会）研究紀要」